

FICoN第1回ウェブ検討会 (R3.6.29)

○「金融の視点から見た森林産業の課題と展望」

<講演>

「新たな森林・林業基本計画による施策の展開方向」 林野庁 石井 洋氏

「グローバルで見た木材需要と海外の森林投資事例」 住友商事(株) 木下 裕介氏

「日本における森林投資の可能性」 (株)日本政策投資銀行 松本 晃氏

<総合討論> (司会)筑波大学 立花 敏 氏、(パネリスト)上記講師の皆様

【ポイント】

- ・森林は脱炭素の中でアピール力が高まっており、森林の資産価値や貢献を評価する仕組みづくりが進めば、魅力的な投資アイテムになる。
- ・ニュージーランドでは林業の利回りが6%~8%で、長期の安定実物資産と見なされ、欧米の年金ファンド等が参入し、個人投資も活発化。
- ・日本へ導入するには、林業のキャッシュフローを安定化させ収益性を担保することがポイント。
- ・森林資源のバリューアップに向け、生産効率化や経営高度化、事業多角化の検討、収益性評価、収支予測シミュレーションなど森林資産の評価手法に関する研究・普及が必要。
- ・すぐに森林ファンドに至らないとしても、まずはアセットマネジメント業務受託から始め、認知度を高めるステップも重要。対象として森林経営管理制度で市町村が管理する林地が想定される。